

柘植地域

# まちづくりだより

## 第167号

発行 柘植地域まちづくり協議会事務局  
(柘植地区市民センター内)

伊賀市柘植町一〇六四七番地

〒五一九一四〇二

電話 四五・八八八〇 FAX 四五・八八八三

発行日 二〇一六(平成二十八年)六月一日(水)



# 時代の変化を捉え、長期的・総合的に



**住民アンケートの結果から考える**  
―まちづくりサロンを実施―  
5月14日(土)、昼と夜の2回、『住民アンケート』の結果

をふまえたサロン形式による住民研修会を開催しました。昼の部・夜の部を合わせて、22名の方の参加を得て、住民アンケート結果(『まちづくりだより』で既報)の概要や伊賀市の進める公共施設最適化計画や自治センター化の方向性をふまえて、自由に意見を出し合いました。

アンケート項目にもあった旧柘植保育園跡地の活用をはじめ、柘植公民館や柘植中学校等のこと、地域の将来を担う若年層のまちづくりへの参画についてなど、約2時間にわたり、熱心に意見の交換が行われました。

○このサロンに参加して思ったことは、私は私なりの考えを持っていましたが、他人の話聞きうなづける点が多く、どれもが正解だと思いました。しかし、そうした様々な意見も、時機が来たら、地域としてひとつの結論を出さなければならぬことが多く、頭が痛いことです。

○まちづくり協議会として、基本的な地域の将来のあり方を決めて、市に要望することも必要だと感じました。

○女性や若年層のまちづくりへの参画についての課題も含め、相互関連する諸課題を地域横断的(12区の連携)、また10年20年先も見据えて総合的に考えていく必要性を強く感じました。

昨年からは、まちづくり協議会では区長様と協力して、各区の行事等の場で、協議会の役割や活動の概要・地域の課題などをお伝えする取組みを進めています。伊賀市ができて10年が過ぎましたが、新しい行政システムはなかなか理解しがたいと言われるなか、少子高齢・人口減少の中で、私たちの生活を取り巻く課題は増えるばかりです。

そうした課題を市行政とは別に、「地域の立場」から説明しご理解いただくという取り組みです。

皆様からお声かけいただきましたら、出来る限り各種会合の場において、お話しをさせていただきたいと考えています。



つつじ祭

各区模擬店の様子から振り返る

小杉区：コロッケ

昨年引き続き、「揚げたてコロッケ」と「小杉の米」の販売しました。一度に揚げられるコロッケは0個で、約5分かかります。今年も行列ができ、待っている方には小杉モロヘイヤ生産組合の「モロヘイヤおかき」を試食してもらいました。小杉斎庭(ゆにわ)会の方が減農薬減化学肥料でこだわって栽培した「小杉の米」には遠くからのリピーターもいらつしやいました。(松山芳博)



倉部区：巻き寿司

巻き寿司を販売するために、公民館でシヨウガなどといっしょにパックに詰めていきます。例年通り完売となりましたが、手間など課題も多くあるのが現状です。(岡島秀夫)

中柘植区：ゆで卵

恒例の「ゆで卵」は、昨年から「4個100円」を「3個100円」にしたため、販売完了時間は昨年が12時、今年は13時まで要しました。ちなみに「4個100円」の時は、11時過ぎには販売完了でした。

卵の確保については、例年、ある業者にお

願っています。「ゆで卵」用の卵は新しいと殻が取りづらいので、日にちの経た「中サイズの卵」120kgの確保をお願いしておりますが、100%の確保は困難だそうです。

例年、女性の

方4名にゆでたまごづくりを協力をお願いしています。毎年午前7時から、集落センターの炊事場で奮闘しておられます。レシピを引き継ぐとともに、早く茹で上げる工夫にも取り組んでいます。(中川善博)



野村区：味飯

今年も恒例の「野村の味めし」として、約500パック(1パック200円)の販売を行いました。売れ行きは盛況で早い時間に完売となりました。

野村区においては、一昔前まで、区の行事、諸々の会合などの後、味飯で食事会をする習慣がありました。このことから、この伝統の「味飯」を毎年販売しています。

調理は、長く婦人会、女性部が担ってきましたが、今は、この味飯時代をよく知る、野村区の高齢層の女性で構成する「ハッピーグループ(味飯の会)」が引き継いでいます。また、つつじ祭に参加出来ない区民にも、区内で販売しており、「味飯」を通じて、野村の昔を懐かしむとともに、区民のつながりにも一役買っています。(梅澤一美)

岡鼻区：日用品バザー

今年も多くの人がバザーをご利用いただき、特にリピーターの方がたくさん来ていただきました。「毎年楽しみにしているの、来年もまたバザーしてやる」など励ましの言葉も多くいただきました。(久泉剛)

小林区：やきとり他

5本で350円の焼きとりを1400本。チーズとささみの燻製100セット、キリコ200袋に塩200袋など販売しました。サロンの会と区により、準備から販売まで精力的にがんばりました。(宮脇照巳)



柘植青葉台区：焼きそば

恒例の「焼きそばと飲み物」の売れ行きは絶好調でした。ソースの美味しさに誘われ、区のテントに集まる集まるお客さん。役員や手伝いの方々の気分も盛り上がりました。暑い日だったので、飲み物も飛ぶように売れ大忙しでした。

売り場の裏に準備した2張のテントには、区民の方々が大勢集まり、焼きそばや飲み物、ビール等を飲食しながら、笑い声と共に語り合う姿が見られ嬉しく感じました。柘植青葉台区ではつつじ祭を通して、区民のコミュニケーションの場作りを最優先課題としているので、今年も無事、役目を果たすことができ安堵しました。心を一つにして取り組むことの大切さと団結することの喜びを感じたひと

ときでもありました。

準備については、事前に仕事分担や手伝い依頼を行っていたので、スムーズに当日を迎えることができました。全員が快く作業してください感謝の気持ちでいっぱいです。行事を通して区民一人一人のつながりを密にし、ここに住んでよかったと思える柘植青葉台区になるよう願っています。(鈴木桂子)

## 山出区：水晶米

山出区では、恒例の「霊山山麓水晶米」と称して山出地域最上部の耕作田で収穫したコシヒカリ米の販売をしました。今年は、売れ行きは芳しくなく、完売まで非常に時間がかかりました。

原因としては、今年のおつじ祭の実施がゴールデンウィーク最終の日曜日で、おつじ祭への参加の層が変わったようで、例年購入していただく方の訪問が少なかったようでした。今年も特筆するところなく、淡々と販売活動を行ったところです。

山出区では、おつじ祭の準備から販売まで区役員だけで行っており、この作業への区民の参画は当初からありません。(写真は準備の様子です。)

また、区民のおつじ祭会場への訪れも、少子高齢化を反映してか、少ないものでした。この傾向



は、年々進んできています。

山出区が米の販売を行っているのには、おつじ祭来場者に区内の霊山山麓で収穫したおいしい米(コシヒカリ)を販売することで、おつじ祭以外での販売につなげていきたいという思いもあり、幟や看板、チラシ等工夫を凝らしながら、販売しているところです。しかし、なかなか思惑通りには進んでいないのが現状です。(藤井登)

## 前川区：飲料品

ビール(200円)、お茶(100円)、天然水(100円)を販売。特にビールはすぐ売り切れました。よい天気だったので炭酸飲料も用意すればよかったかもしれません。組頭の女性4人が声をかけて販売しました。男性ももつと頑張らなきゃね!(林田民生)

## 上村区：バナナ

前年まで「豆腐田楽」を販売していたのですが、当日会場に来てからの準備が大変で、各組から4名のお手伝いをお願いしていましたが、例年厳しいとの反省の声があり、今年3月の幹部会で見直しを行い、何か手軽に出る物がないか検討した結果、「バナナ」を販売することとし、150房を用意して200円で販売しました。安いこともあり、2時過ぎには全て完売できました。

例年の「豆腐田楽」



を楽しみにしておられる方もおられ、「上村区はなぜバナナに変わったのか?」と問い合わせる方も何名かいましたが、説明し理解していただきました。

バナナの値段は日により異なり、また色々な品物もあり、値段設定には苦労しました。1房200円では収入が上がらない分、お客様からは、大変安いと喜んでいただきました。(城出憲一)

## 上町区：フランクフルト

恒例のフランクフルト500本を販売。売れ行き好調で早々に完売となりました。区のテント内の休憩所には多くの人が訪ねてきて、情報交換や近況報告の交流も出来ました。

準備は区の幹部が、前日から道具の点検や材料の買い出しに走り回り、当日は万全の体制で臨むことが出来ました。(平野努)

## 下町区：ウニごはん

5代前の区長時から「ウニごはん」が定着し、今回も売行き上々で500パック(昨年より100パック増)が完売しました。昨年は1時には売り切れてしまい、不満続出でしたので今年は10時販売開始を守りました。仕込みは前日の夜に米をかき、朝5時頃から3升釜4個で炊いて臨みました。(半田三都生)



# つつじ祭に黒豆を使った あん巻きとたい焼き

今回、用意した黒豆関連品は、「黒豆」、「黒豆あん巻きちゃん」、「黒豆たい焼きくん」、「黒豆水まんじゅう」の4種類で、産業交流部会の特産品販売ブースは大盛況でした。販売も好評のうち完売となりました。

今年から専用テントの下、女性部会との協働作業も大成功でした。

今後、黒豆の加工品開発に力を入れていきたいと考えています。



## 黒豆栽培のイロハを学ぶ

5月30日(月)夜、市民センターでJAIいがほくび営農指導員の玉池博徳さん(写真左)



に約2時間、黒豆栽培の基本についてお話ししていただきました。栽培が初めての人のために、よくわかる学習となり、今年はいっそうの良質・多収をめざせるものと思います。特産品創出実行委員会

## 獣害への対策はゆるめない！

生活環境部会

5月24日、県伊賀庁舎で、伊賀市鳥獣害対策協議会総会が実施されました。



サル被害は減りつつあるものの、シカの被害への対策が急務となりました。柘植地域では区長部会と協力して取組みを今年も進めます。

## ①山林環境への関心を深めるために

耕作放棄地、間伐放棄林、鳥獣害、不法投棄など山林に関わって様々な問題が山積しています。その理解と対策を考えるため、柘植地域住民を対象に学習会を開催します。関心のある方は、お問い合わせください。

◆日時 6月23日(木) 午後1時～

## 災害に備えて…

自主防災実行委員会

4月19日、第1回委員会を開催しました。当日は各区自主防災担当者をはじめ松本伊賀支所長、奥東消防署長、山口東部圏域課長等の方々にもご出席を願い、「27年度事業報告」「28年度事業計画案」について説明しました。折しも「熊本地震」が発生し、頻繁に報道がされていることもあり、参加者の皆さんから避難所等の話題が上ったほか、初動リーダーの

重要性と出席率向上についても議論がなされました。

大震災が発生した場合に備え、今年も自助・共助を主体とした各種訓練等を実施しますのでよろしくお願ひします。

## ②避難所安全点検要領講習会

避難所を開設する際には二次災害を受けやすい施設の安全点検は、元来、建築士など「応急危険度判定士」の資格を持つ方が実施することになっていきます。しかし、我々自身が目視による状況確認ができるに越したことはありません。このたびは資格者から講習を受け、マニュアルに基づいた調査をし、早期の避難所開設ができるように学習をすることになりました。



◆日時 6月18日(土) 午後1時～

## ③家庭ゴミの出し方分別学習会

◆日時 6月16日(木) 午後2時～  
生活環境部会・女性部会  
※詳細は、『ごみニュース6月』を参照

## ④つげふくしネット設立会・記念講演会

健康福祉部会  
記念講演(講師:板井正育さん)  
「誰もが柘植に住み続けられる里づくり」  
◆日時 6月22日(水) 午後7時半～  
※詳細は、別紙チラシを参照

右記①②③④の会場はすべて市民センターです。